

「岐阜県博物館協会のネットワーク」

20260805

令和8年度宮城県博物館等連絡協議会 第1回研修会

(岐阜県博物館協会会長)
美濃加茂市民ミュージアム
可児光生

はじめに

これまでのこと

活動状況

もの部会活動状況

地域資源に関わる

これからに向けて

博物館法の改正 (2022年制定、2023年施行)

約70年振りの改正

1. 法律の目的及び博物館の事業の見直し

- ・目的に社会教育法に加え文化芸術基本法の精神に基づくことを追加
- ・博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加
- ・他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与を努力義務化

2. 博物館登録制度の見直し

- ・地方公共団体、社団法人・財団法人等に限定していた設置者要件を法人類型にかかわらず登録できるように改め、地方独立行政法人立、会社立などの登録も可能
- ・資料の収集・保管・展示及び調査研究を行う体制等の基準に適合するかを審査
- ・都道府県等教育委員会による学識経験者の意見聴取、運営状況の定期報告、報告徴収・勧告など登録審査の手続き等の見直し

さまざまな連携

改正「博物館法」(2022年)

(博物館の事業)

第三条

2 **博物館**は、前項各号に掲げる事業の充実を図るため、他の博物館、第三十一条第二項に規定する指定施設その他これらに類する施設との間において、資料の相互貸借、職員の交流、刊行物及び情報の交換その他の活動を通じ、相互に連携を図りながら協力するよう努めるものとする。

3 **博物館**は、第一項各号に掲げる事業の成果を活用するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力し、・・

「事業」として強調
されたさまざまな
「連携」

他の博物館
との連携

自治体、学校、
民間との連携

旧「博物館法」(1951年)

(博物館の事業)

第三条

十 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び 情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。



「・・・全国の博物館が、時代の要請や環境の変化に取り残されることなく発展していくためには、博物館が互いのノウハウやリソースを共有し合うネットワークを形成することで、小規模な館でも効率的・効果的に新たな課題に対応することができる環境を作っていくことが求められます。

新しい制度では、登録博物館が互いの連携や指定施設との連携に努めるものと定めることで、こうしたネットワークづくりを促進します。」

他の博物館との連携

・・・「岐阜県博物館協会」

岐阜県にはさまざまな館がいっぱい

○1966年(昭和41)創立 民間館の熱意

○現在の加盟館 106館

(国立法人1、県立9、市町村立47、私立49、+個人会員20名)

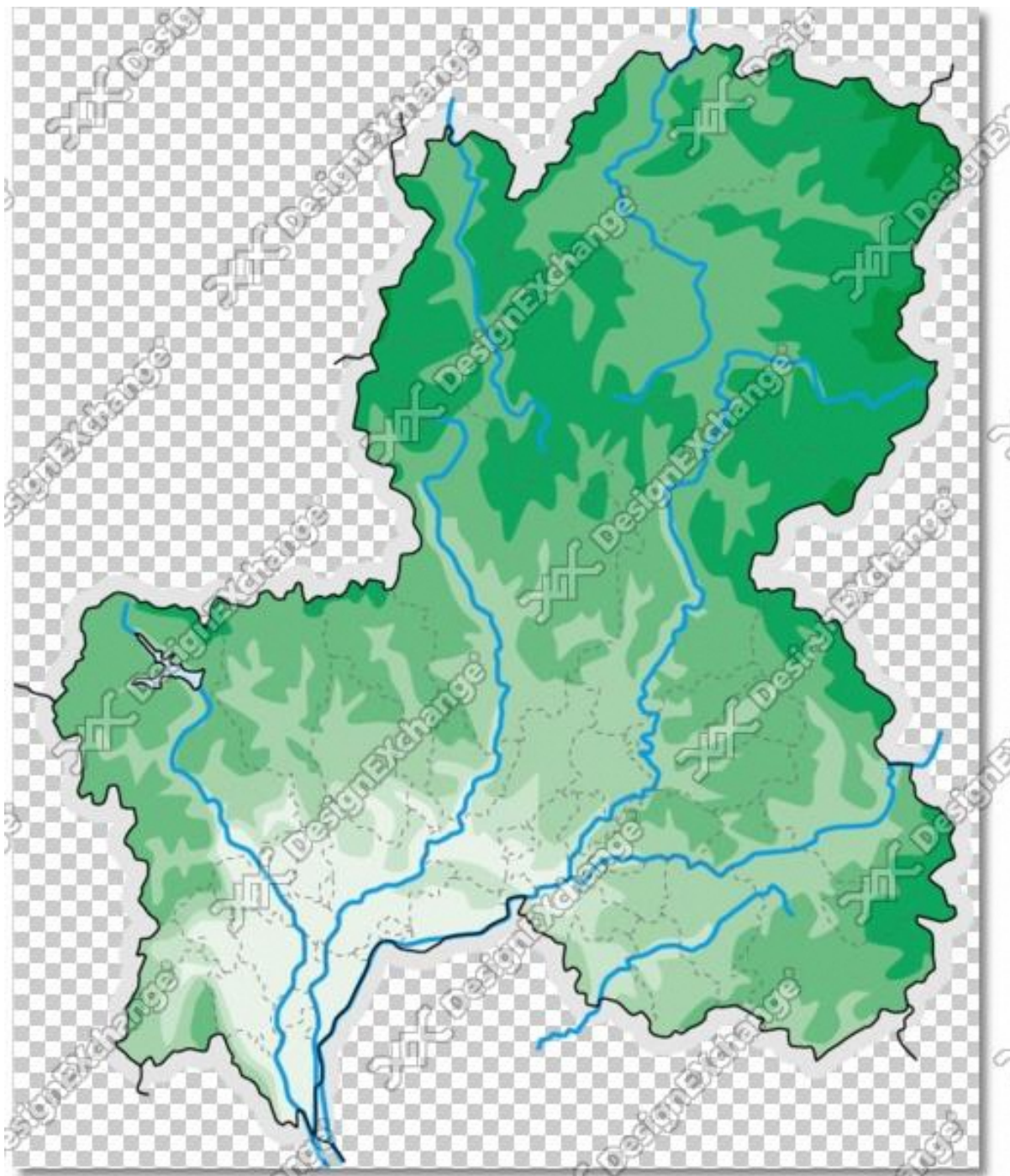
少し変わっ
ている

* 事務局: 岐阜県博物館総務部内

岐阜県 美濃国＋飛騨国

「飛山濃水」
南部と北部
で違う風土

日本の
人口重心



2014年度までの組織

「機関紙HP委員会」「研修研究委員会」「公開講座委員会」「地域活性化委員会」＋理事会

しかしあまり機能していなかったことは事実、事務局任せ・・・



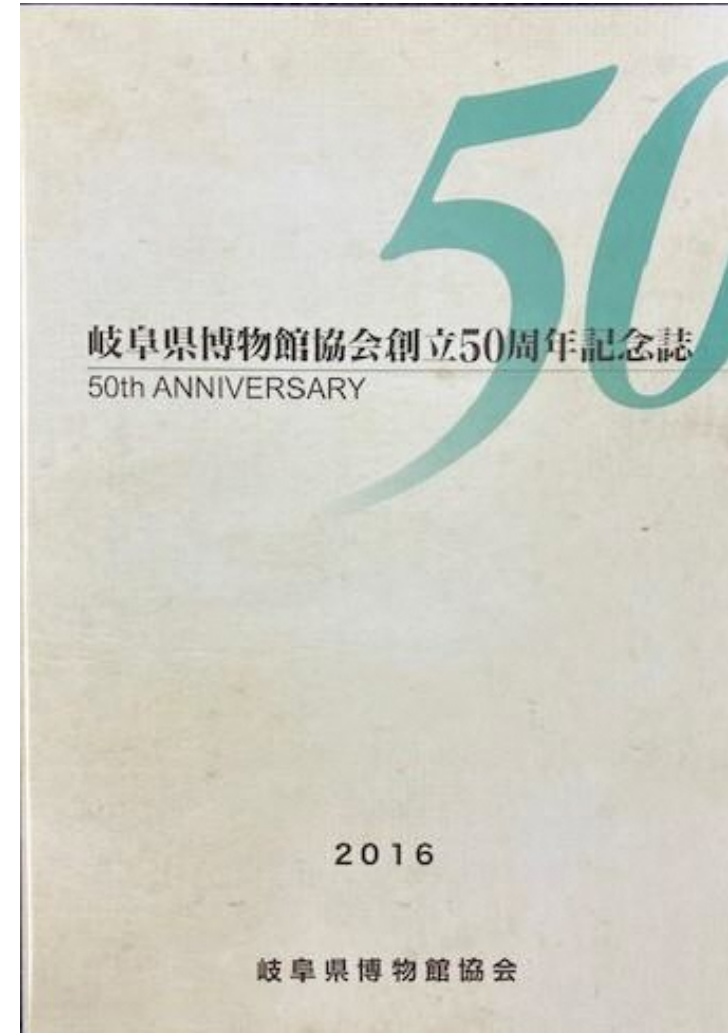
50周年事業(2016年度)にあわせて 2015年度から

＋「のこす部会」「ひろめる部会」「たかめる部会」に模様替え、
加盟館の自主的活動をめざす

- ・連携企画「街道・ネットワーク」
- ・ロゴマークの作成
- ・ミュージアムスタンプラリー
- ・ミュージアムレスキューの研究



「街道」をテーマに加盟
館が多彩なプログラム
(『展示学』№54、2017)



記念誌
103ページ、
アンケート結
果等も収録



スタンプラリー

事務局任せでなく、みんなで



岐阜県博物館協会 創立50周年記念事業/20160527/岐阜市メディアコスモス

創立50周年に合わせてアンケートを実施 (2015年10月実施、72館から回答)

○延床面積1000m²未満 40.4%

○学芸系職員 平均1.8名(常勤＋非常勤)

[課題]

○「施設・建物が老朽化している」 61.1%

○「財政的に恵まれていない」 41.7%

○「資料保存が難しい」 40.3%

○「職員の数が不足している」 37.5%

10年前も現在と変わらない状況

アンケート中の自由意見

- 「理事会と実働役員の接点がほとんどない」
- 「それぞれの館を知ることから始める」
- 「個々の活性化のために横のつながりを生かす」
- 「地区単位で事業実施できるようにできないか」
- 「加盟館が集合できる場所を各地で設定し定期的に集まれないか」
- 「ブロックごとでテーマ性を持った活動や情報交換」
- 「外部機関や団体とのつながりをもっと」
- 「文化財レスキューの構築は社会的役割」
- 「さまざまなネットワークが必要」 などなど・・・

当時も課題
意識は変わ
らない

現在の組織・
仕組みの原点



新組織の発足(50周年の翌年 2017年度)

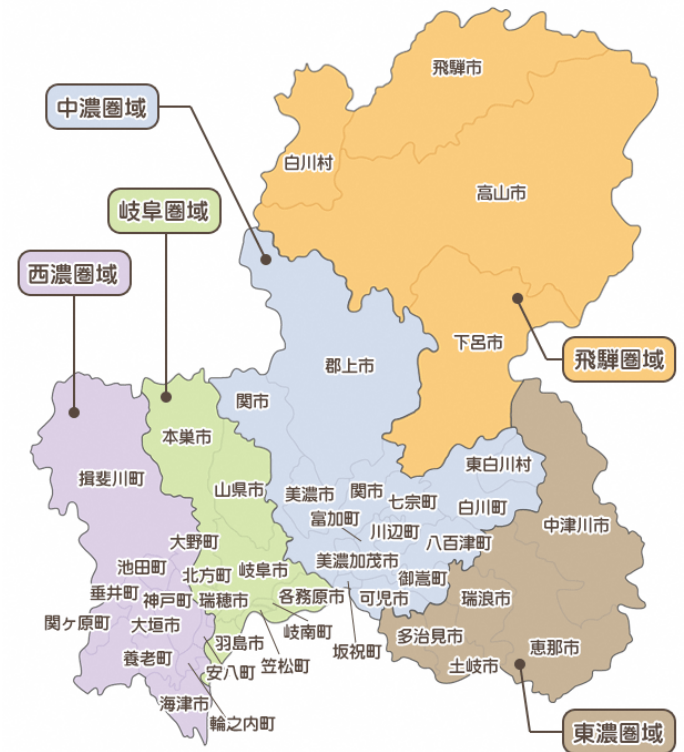
企画委員会の新設（各部会をまとめ調整）

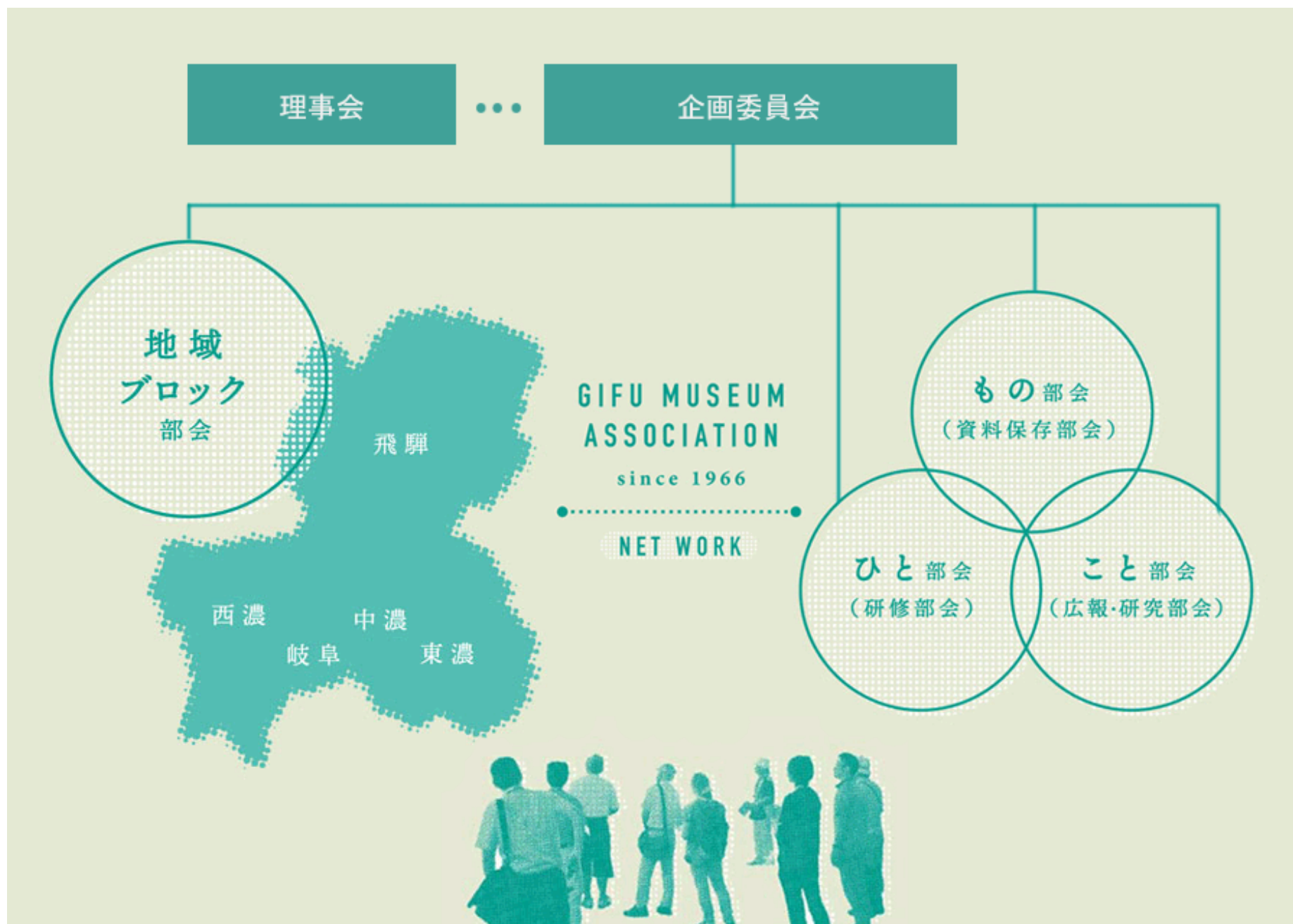
「のこす部会」「たかめる部会」「ひろめる部会」を改組し

- ・「もの部会」(資料保存)
- ・「ひと部会」(研修)
- ・「こと部会」(広報・研究)
- ・5地域ブロック部会

(岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨)

*メンバーは原則加盟館から自主参加







ロゴコンセプト

- 全体のトーン＝楽しさ、若さ、親しみ感
- ポイント部分＝発想、ひらめき、発信、伝達、革新
- キーカラー＝岐阜の山、川のミックスブルー

デザイン：グラフィックデザイナー 森美佳 (zoomic)。



ロゴ入り幟

企画委員会と 部会構成 (2026年度)

○企画委員 (任期 令和8年5月30日～令和10年5月29日)

役 職	氏 名	所 属
企画委員会 委員長	砂田 普司	瑞浪市陶磁資料館
副委員長	※ 宮崎 香里	岐阜現代美術館

専門部会 (任期 令和8年5月30日～令和10年5月29日)

部会名・役職	氏 名	所 属
もの部会 部会長	※ 長谷 健生	各務原市歴史民俗資料館
副部会長	※ 齋藤 智愛	岐阜県美術館
ひと部会 部会長	岡田 潔	岐阜県現代陶芸美術館
副部会長	和歌 由花	美濃加茂市民ミュージアム
こと部会 部会長	砂田 普司	瑞浪市陶磁資料館
副部会長	佐竹 祐佳	岐阜県博物館
副部会長	西尾 円	美濃加茂市民ミュージアム

地域ブロック部会

部会名・役職	氏 名	所 属
岐阜ブロック部会 世話人	須山 知香	岐阜大学教育学部
西濃ブロック部会 世話人	上嶋 康裕	奥の細道むすびの地記念館(大垣市文化振興局)
中濃ブロック部会 世話人	宮崎 香里	岐阜現代美術館
東濃ブロック部会 世話人	砂田 普司	瑞浪市陶磁資料館
飛騨ブロック部会 世話人	石原 直樹	飛騨高山まちの博物館(高山市教育委員会文化財課)

県立館が
持ち回り
というやり方
ではない

※ 専門部会部会長、副部会長及び地域ブロック部会世話人は企画委員会委員を兼ねる

2026年度 協会予算 2,592千円

◇収入・・・会費(522)、企業等助成金(1,100)など

◇支出・・・うち 地域ブロック活動費 560 (*)

資料保存研究 100

研修 100

広報・研究 480

60周年事業 400 など

(*) 地域ブロック活動費 100×5地区＋他ブロックとの連携 60 (23年度新設)

公益財団法人
田口福寿会

OKB 大垣共立銀行

 JUROKU Financial Group

 十六銀行

あたたかい
支援

専門部会の活動

①「ものの部会」 後述

②「ひと部会」

- ・会員向けの実践的な研修会を企画

(作品取り扱い・梱包、資料の活用、学校との連携、著作権、ミュージアムグッズなど多彩)

③「こと部会」

- ・年2回の機関紙「News Letter」(これまでに198号)発行
- ・会員が関わった展覧会や事業、研究の成果を紙面に投稿(特に小規模館)
- ・日本博物館育ての親で岐阜県北方町出身**棚橋源太郎**(1869～1961)の調査研究、生誕地での顕彰活動との連携

地域ブロック部会の活動

地域に根ざした活動を独自に行うことを目的とする。公開講座など一般向けの事業も行い、博物館から地域へ発信する場とし、博物館への理解を深めてもらう。他の地域ブロックや専門部会との情報交換、連携事業も行う。

- ・博物館や地域の文化資源に触れる「公開講座」
- ・加盟館相互の見学会（一般参加あり）や情報交換会

などなど

- * 部会員は自主参加、協会個人会員も参加する。
- * ブロックごとに世話人2名程度選ぶ。
- * 独立会計とし、年間事業費（例年@10万円×5地区）を協会が交付。

企画委員会の活動・全体研修会

○総会時に各部会活動や研究成果を発表する報告会毎年開催

○直面するテーマを設定し、総会時に研修会

・「博物館資源のデジタル化とオープン化」

(2022年度／文化庁 博物館支援調査官 中尾智行氏)

・「新博物館法から考える博物館ネットワーク」

(2023年度／東京都歴史文化財団本部 佐々木秀彦氏)

・「氷見市の文化財レスキューについて」

(2025年度／氷見市立博物館 廣瀬直樹氏)

○東海三県(愛知・岐阜・三重)博物館協会研究交流会

・「博物館資源のデジタルデータベース化の現状と今後」

(2022年12月／法政大学教授・金山喜昭氏＋ディスカッション)

・「地域に向き合う博物館のあり方」「新博物館法における登録」

(2026年2月／各県からの事例報告＋日本博物館協会による全国動向の報告)

学会、団体との連携・交流

○日本展示学会との共催事業

- ・「地域資源と展示のあり方 多角的視点と博物館の連携をととして」(シンポジウム・2016年度)以後
- ・「岐阜現代美術館桃紅館に移設展示されるアトリエ 見学会」(2023年12月21日)
- ・「新館豊田市博物館の見学と研究会」(2024年12月19日)
- ・「アクア・トト・ぎふのバックヤード見学と研究会」(2026年2月3日)

○日本民具学会

- ・(共催)「徳山民俗資料収蔵庫における研究会」(2026年11月7日)
- ・(後援)「郡上市明宝歴史民俗資料館における見学会」(2026年11月8日)

○岐阜県歴史資料保存協会との共催事業

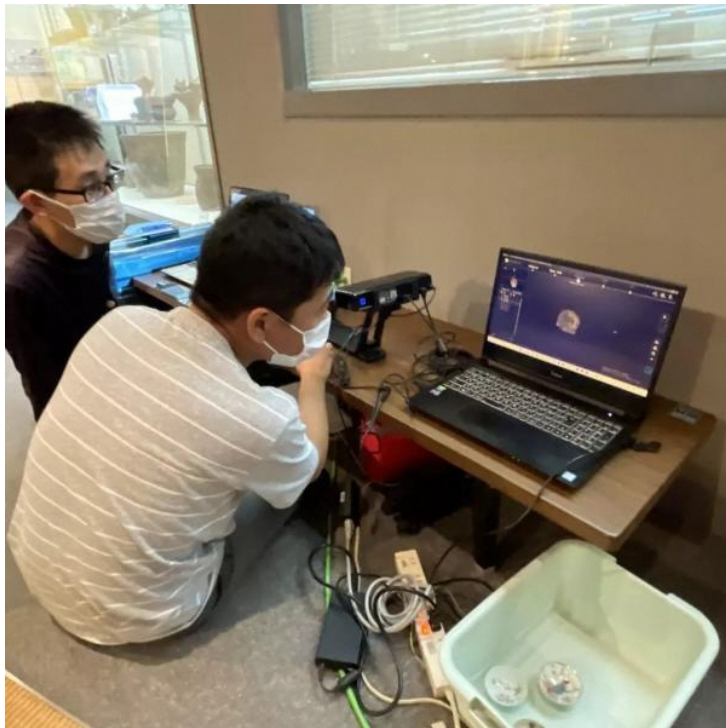
- ・「可児市戦国山城ミュージアム見学と城跡めぐり」(2025年11月18日)

→近い領域の団体の交流は有意義。多様な視点の交流・刺激がおきる



中濃ブロック見学会
/20171205/郡上市歴
史資料館 開館直前
の見学

まずは他館の
見学会から...



飛騨ブロック研修会
/20220730/飛騨みや
がわ考古民俗館「石棒
3D合宿」



東濃ブロック研修会
/20230118/「日本画
の取り扱いを学ぶ」

岐阜県博物館協会
Gifu Museum Association

岐阜県博物館協会
第95回会員研修会

小さいからできること、
小さいから悩むこと、
みんなで考えよう！

小規模館の強み

2018年10月30日(火)

岐阜県博物館協会の会員館の中には、小さな規模の博物館・美術館がいくつもあります。小規模館ならではの悩みもあるかもしれませんが、逆に小さな館にしかできないこと、小さいからこそできることがあります。例えば、地域性を掘り下げた展示ができる、自由なテーマで独自の活動ができる、地域の人々と深く関われるといったことや、その外にもさまざまな利点を挙げることができるでしょう。今回の研修会では、そんな小規模館の強みなどについて考えます。他県の事例なども織り交ぜつつ、お互いの館のことを紹介し合いながら、それぞれの館が自分の館の持っている力を見つめ直すような時間になれば幸いです。小さな館は勿論のこと、そうではない館にとっても、運営の参考になるようなことを見つけられると思います。

研修会の後は、下呂市にある小規模館として、下呂ふるさと歴史記念館と下呂発温泉博物館の見学会を行います。さわやかな秋の飛騨へと、ぜひ足をお運び下さい。

【第一部】研修会
時 間：13:00～14:30(12:30～受付)
会 場：下呂ふるさと歴史記念館体験室(定員20名)
下呂市森 1808-37 / TEL0576-25-4174
コーディネーター：可児 光生(美濃加茂市民ミュージアム館長)

【第二部】見学会
14:30～ 下呂ふるさと歴史記念館
*温泉博物館への移動は各自でお願いします。(無料駐車スペースあり)
15:30～ 下呂発温泉博物館(下呂市湯之島 543-2) 16:30 終了予定

申込方法 事前申込：10/23(火)までにFAXかメールで下記まで。
件名に「第95回ひと部会講演会」、氏名、所属館名、電話番号を明記してください。
問い合わせ・申込 岐阜県博物館協会 ひと部会 事務局
美濃加茂市民ミュージアム 担当：和歌由花
(yuka.waka@city.minokamo.lg.jp)
美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1
TEL 0574-28-1110 FAX 0574-28-1104

本事業に、ご支援いただいている
企業・団体

公益財団法人
田口福寿会

OKB 大垣共立銀行

十六銀行



ひと部会研修会/20181030/
下呂市/「小規模館の強み」

「小回りがきく」
「決定が早い」
「市民や利用者
との関係が濃
厚」「活動がユ
ニーク」...

第94回会員研修会 ミュージアムグッズで考える
岐阜県博物館協会

2018年3月9日(金) 14:00~16:00

美濃加茂市民ミュージアム 研修室(定員42名)

共催:岐阜県博物館協会 ひと部会
日本ミュージアム・マネージメント学会

近年、全国のミュージアムショップでは館のテーマやコンセプト、収蔵品の魅力やミュージアムの楽しさを伝える、個性豊かなミュージアムグッズが開発・販売されています。「ミュージアムを自分化するための博物館・美術館ジャーナル」をコンセプトにした博物館の情報誌『ミュゼ』では、それぞれの館の創意工夫に満ちた全国の愛すべきミュージアムグッズを紹介し続けています。今回の会員研修では『ミュゼ』編集長の山下治子氏をお招きして、ミュージアムと人とのコミュニケーションも生み出す魅力的なミュージアムグッズについてお話しいたします。

そして、後半では岐阜県博物館協会加盟館で制作・販売しているオリジナルグッズを持ち寄って、事例の報告や意見の交流を行います。そして、岐阜県の博物館により親んでもらえるようなグッズの開発、制作の方法、販売の仕方等について考えます。オリジナルのミュージアムグッズがある会員館の皆様は是非、会場へグッズをお持ちください。

【会場住所】

〒505-0004
岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1
美濃加茂市民ミュージアム



講師：山下治子氏『ミュゼ』編集長

申込方法

事前申し込み：Faxかメールで下記まで。件名に「ひと部会講演会」、氏名、所属館名、電話番号を明記してください。

問い合わせ・申し込み 岐阜県博物館協会 ひと部会 事務局
美濃加茂市民ミュージアム 担当:和歌由花 museum@forest.minokamo.gifu.jp
岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1 TEL:0574-28-1110 FAX:0574-28-1104

協賛 公益財団法人 田口福寿会 十六銀行 OKB 大垣共立銀行

ひと部会 研修会/20180309/
「ミュージアムグッズを考える/
美濃加茂市民ミュージアム

総務系スタッフ
も参加、楽しい
ミュージアムに





地域ブロックで共有している地域資源
「ダム」をテーマ

共通の地域
資源で連携



中濃ブロック公開講座/20180802/ダム展に
関する発電所見学/八百津町

「地域の課題に向き合う」

・・・少子高齢化、持続可能な社会、多文化共生、地域コミュニティの喪失などなど
「福祉」「医療」「健康」

コミュニティ～回想法

みのかも文化の森講座「回想法」を学ぶ（第2回）／岐阜県博物館協会中濃ブロック部会公開講座

失われゆくモノから地域のコミュニティを考える
博物館や家にあるモノを回想しながら、人々とのつながりを考えていく
取り組みをお話いただきます。

みのかも文化の森では、年中行事や「ていねいな暮らし講座」などの体験をとおし、回想法の手法によって、人々が記憶をよみがえらせ、少し幸せな気持ちになれる取り組みを進めています。
この春には、「みのかも想ひ出すころく」を制作し、市内関係施設に配布し、活用されています。高齢者の記憶の中にある「暮らしの思い出」が語り継がれていくことは、地域にとっても大きな宝物となります。地域回想法と博物館のこれからの役割を考えます。

2018. 1. 26 金 13:30～15:00
みのかも文化の森「研修室」

講師 九州保健福祉大学准教授 山内利秋氏

参加 参加無料 当日受付

みのかも文化の森
美濃加茂市民ミュージアム
MINO-KAWA CITY MUSEUM
〒505-0904
岐阜県美濃加茂市穂原町大峰道 3299-1
TEL:0571-228-1110 FAX:0571-228-1104
http://www.forest.mino-kawagata.jp/

参加無料
当日受付

※本講座は日口福寿会、十六銀行、大垣共立銀行のご支援により開催しております。



中濃ブロック公開講座/20180126/「回想法・失われゆくモノから地域のコミュニティを考える」/美濃加茂市民ミュージアム

福祉関係者の
参加も多く・・・

「地域の課題に向き合う」～博物館浴

「博物館浴」という言葉が最近使われるようになった。

- ・森林浴のように博物館が様々なストレスを軽減する癒しの場として注目され生まれた言葉である。

- ・2023年1月、博物館、福祉、医療関係者に呼び掛け、美濃加茂市民ミュージアムと岐阜県博物館との共催で研修会を開催した。

- ・当日は16名の参加者に展示室を観覧してもらい、その前後で心理的・生理的数値の変化を見る実験も行われた。その結果、作品鑑賞が一定の癒しの効果をもたらすことが実証された。

- ・博物館は医療や福祉といった領域とも関わりをもち、社会的役割を果たしていくことが求められる。

「博物館浴」その効果とこれからを考える 研修会

今年4月に改正された博物館法の議論の中で、「これからの博物館に求められる役割」の一つに「社会や地域の課題にむきあうこと」が示されました。さまざまな課題のなかでも、福祉や医療は特に重視されていることがらです。それに関して、これまでに博物館が高齢者福祉の現場と連携しながら地域回想法に取り組んだり、医療現場で美術作品の鑑賞を導入したりする事例も見受けられるようになってきました。カナダでは医師会と美術館が提携して、治療の一つとして美術館見学を処方箋として出しているところもあります。

人々のストレス軽減や活力を高めるために、ミュージアムの資料や作品の活用は一定の効果があると言われ、最近では「森林浴」のように「博物館浴」という言葉も生まれ、その手法に注目し楽しみ期待が寄せられています。

今回の研修会では、博物館、福祉・医療・健康に関わる多方面の方々を対象に、「博物館浴」の現状、及ぼす効果と測定などに関するお話と実験をおし、共通理解を深めて地域での連携のあり方や今後の方向性を考えていく場にしたいと考えます。

主催 みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアム
岐阜県博物館協会（ひと部会・中濃ブロック部会）

日時 2023（令和5）年1月24日（火） 13:30～16:00

会場 美濃加茂市民ミュージアム 緑のホール（岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1）
（TEL 0574-28-1110 <http://www.forest.minokamo.gifu.jp>）

- 13:00～13:30 受付
- 13:30～13:40 趣旨説明
- 13:40～14:55 講演「『博物館浴』研究の最前線」
講師：緒方 泉氏（九州産業大学地域創生学部教授）
- 14:55～15:10 質疑
- 15:10～15:20 休憩・準備
- 15:20～16:00 「博物館浴」の効果測定体験（20名）と見学

定員：80名（うち「博物館浴」の効果測定体験者20名） 参加料：無料

参加申し込み：お名前、所属先、メールアドレス、効果測定体験希望の有無を記して、直接、
もしくは <https://logofarm.jp/form/XQZW/195723> へ、1月19日（木）までにお申込みください。

※効果測定は、鑑賞の前に、生理測定（脈拍、血圧測定）と心理測定を行い、鑑賞のあと、同測定を行ってその変化、効果を見るものです。希望される方は申込時にお知らせください。事前の測定は、講演の前に行いますので、お手数ですが12:40までに受付へお越しください。

緒方 泉（おがた いずみ）

1957年東京都生まれ。九州産業大学地域創生学部教授。1985年福岡県教育庁文化課に入り、福岡県総合国立博物館対策室などを歴任。2002年から九州産業大学美術館学芸員、同大学美術館教授を経て、2018年より現職。著書に「学芸員がミュージアムを変える」・「公共文化施設の地域力」(2021年) などがある。専門分野は博物館学、観光心理学。

【お問い合わせ】

美濃加茂市民ミュージアム 可児光生／長谷川明子
〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1
tel: 0574-28-1110 / fax: 0574-28-1104
E-mail: mitsuo.kani@city.minokamo.lg.jp

協力 美濃加茂市健康課、美濃加茂市高齢福祉課
美濃加茂市社会福祉協議会

本事業にご賛助いただいている
企業・団体

公益財団法人
田口福寿会

OKB 大垣共立銀行 十六銀行



日本画の
作品を鑑
賞後・・・

心の安定に
一定の効果

美濃加茂市民ミュージアムのほど近いところに2022年度中部地方を代表する医療センターが立ち、市の健康関係の部署も移転し、市民の健康増進の拠点となっている。

「博物館浴」研修会・実証実験（2023年1月24日）

そもそも地域博物館の役割とは

◇「利用者とは、展覧会観覧者だけではない。地域課題に向き合う人々にも視野を向けなければならない。」

◇「地域の課題は、市民自身が主体となって取り組むことが基本であり、地域博物館の役割は、こうした市民自治の原則を、博物館の領域において、そして博物館の機能をとおして育み、支えていくことである。…地域の課題に、博物館の機能をとおして、市民とともに応えていこうというのが地域博物館である。」

（伊藤寿朗『市民のなかの博物館』1993年、p160ほか）

・・・30年たっても、今も変わらない

「もの部会」活動状況

ミュージアムレスキュー 活動要綱の制定（2016年3月23日）

- 1.対象 協会に加盟する館園の施設及びその所蔵資料
- 2.体制 地域5ブロックと中核館＋センター館
- 3.救済活動
 - ・対象とする災害
震度5弱以上の地震・集中豪雨による水害・その他
 - ・活動手順
一次救済（被災資料の搬出等）、二次救済（修復保管）
- 4.平常時の活動
連絡網、情報伝達訓練、研究と研修
- 5.予算
経費は、協会の予備費と災害対策積立金を充てる

能登半島地震被災の飛騨市みやがわ考古民俗館への支援

2024年

- 1/4 ▪被災状況の把握
(岐阜県重要文化財8点を含む展示品に被害)
- 1/16 ▪協会からレスキュー支援キットを送付
- 2/18 ▪飛騨市から協会に支援要請
- 4/25 ▪もの部会メンバーを中心に19名が参加
 - 土器接合を含む考古資料の修復作業
 - 考古資料減災のための展示改善
(シリコンシートなど)
 - 民俗資料減災のための展示改善
(有孔ボードへの固定)



成果

- ・それぞれが専門とする分野で作業を行い、お互い声掛けをしながら不足を補うといった流れが自然とできた。
- ・約半日という短時間にもかかわらず、最大限の成果を上げることができた。
- ・作業後の意見交換会では、現場で必要な資機材についての具体的な情報交換ができ、大変有益な時間となった。



日頃の活動

(1) 資器材の配備と研究

- ・災害時の資料保存のための必要資材(洗浄用刷毛、保管用コンテナ、薄葉紙など)をブロックごとに配布
- ・保存用冷凍庫(233L)も 2ブロックに配備

(2) 民俗資料の保存管理に関する課題共有、対応

- ・見学会と研究会
- ・「望ましい基準」でも言及される「廃棄」問題への意識

(2) 民俗資料の保存管理に関する課題共有、対応

① M市所蔵民俗資料への関わり 20221212

◇資料館移転にともない、収蔵資料の移動(一部処分も)の危機があり、協会に支援要請

◇現地調査会の開催

- ・協会もの部会を中心に12名が参加。
 - ・収蔵と活用に関しての多くのコメント
 - ・M市の関係者も同席
 - ・博物館協会という組織がこれだけの関心を持っていることが市へ伝わる。
- 協会としての役割が少し果たせたような・・・

→しかし、その後、市としての行政施設統合という大きな方針の流れの中で・・・不透明



②最近の見学会と研究会

- * 加茂郡坂祝町公民館資料室
(2025年3月5日)
・・・学芸員不在
- * 各務原市立鵜沼第一小学校資料館 見学会
(2025年10月1日)
・・・小学校で保管すること、市民の協力
- * 「徳山民俗資料収蔵庫における研究会」
(再掲・2026年11月7日)
- * 「郡上市明宝歴史民俗資料館における見学会」
(再掲・2026年11月8日)



各務原市立鵜沼第一
小学校資料館

* 野外博物館 G民家園 資料整理 (2026年6月24日)

◇G民家園は博物館登録のために収蔵資料を目録化する必要性に迫られ、担当学芸員がその方法や進め方について協会に支援要請があった。



◇現地調査会の開催
もの部会を中心とする協会員 13 名が参加し、民家園の建造物、民具資料の清掃、および展示資料類の防災展示措置を行い、あわせて「博物館登録制度」に関する研究会、本事業に関する意見交換を実施。



(まとめの会から)

- ・民俗・民具専門の学芸員と一緒に作業でき、専門性の高い資料の取扱い法を学べた。
- ・館によって使用する清掃、整理道具と方法に違いがあって、参考になった。
- ・展示スペース、資料が清潔になり、次の整理作業等に進むよいきっかけに。
- ・こうした困りごとを抱える館について、相談窓口・相談方法をフローチャートとして整理し、広く公表を検討しては。



異分野の学芸員による情報交換
日常の活動へのヒント
協会のあり方を考える機会

要請側と協会どちらにも大きな成果があった



民俗資料の保存管理に関する活動を通して見えてくるもの

・・・博物館が収蔵している地域資料の保存管理が課題であり、「望ましい基準」における「廃棄」に関わる現実がここにある。

しかしむしろそれ以上に危機に瀕しているのは、民間所有の地域資料

民俗資料の保存管理に関する活動を通して見えてくるもの ・・・地域資料に関する市町村の「現在」

- ・対応できる職員がいない自治体も多い(埋文担当者は一定数存在するが・・・)
- ・それを調査保存する予算措置もない。
- ・それが必要と判断しても、それを収蔵する場がない。
- ・博物館や資料館がある自治体は、かろうじて対応できるが、収蔵スペースにも限界がある。

・・・



日に日に、地域から貴重な資料が消滅している状況。
災害等による消滅よりはるかにその数が多いのでは・・・。

地域に残る民俗資料は 地域住民の生きた証、暮らしの営みそのもの

- ・・・ただ民俗資料に限らずあらゆる地域資源にこそ光をあてるべき
 - ・・・博物館は、館蔵資料に限らず地域にそのままのこることがらも対象とし、掘り下げることが重要
 - ・・・それらはまさに地域の特性やアイデンティティのよりどころ
-
- 博物館としての考え方を深め共有すること
 - 一緒になって関わる人や組織との連携を探る必要がある

文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画の策定等に関する指針

「…このような文化財に加え、生活文化や国民娯楽など、必ずしも文化財に該当しないものであっても、各地域にとって重要であり、守り伝えていくべきと考える**文化的所産を幅広く捉える**視点も有効

本指針で規定する大綱や地域計画は、異なる類型の文化財を総合的に保存・活用する方策を講じるための仕組みであり、そのためには指定・未指定にかかわらず、各地域の**多様な文化財を包括的に**捉えることが重要。https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/bunkazai/ozuna_sagyobukai/02/pdf/r1408868_01.pdf

⇒公共財としての地域の資源という観点

・・・美濃加茂市 2024年度末に策定

未指定文化財も包含した地域資源→その**拠点施設**が博物館

美濃加茂市文化財保存活用地域計画の策定

「改正文化財
法」(2018年)
にともなう

令和6(2024)年12月20日、美濃加茂市は「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」を作成し、文化庁から認定された。当時、この計画を備えた市町村は、岐阜県内で3例目、全国で計194自治体を数えることになった。

計画では、「**想いがつながり、深まりつづけるまち**」を大きな願いとして、謳うこととした。

その出発点になるものは、法律で「文化財」とされるものである。ただそのような指定「文化財」だけではなく、自然と共にこの土地で生まれ、育まれてきた様々なものを忘れてはいけない。

美濃加茂市の暮らしの中で大切にされてきた、私たちの営みを表す証となるもの、それらを「**みのかも地域文化資源**」と位置づけ、計画の対象とした。

美濃加茂市民ミュージアム企画展

みのかも 地域文化資源のある 暮らし

「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる!

2025 4/19土 → 5/25日

みのかも文化の森/美濃加茂市民ミュージアム 企画展示室・美術工芸展示室

【観覧時間】 9:00～17:00

【休 館 日】 月曜（祝日の場合は開館。翌日が休館）、

4/21日、4/28日、5/7日、5/12日、5/19日

観覧料無料



計画策定の成果と今後を、展覧会に (2025年4月19日～5月25日)

○身近な多様な地域文化資源を紹介

- ・市内14の小中高の校歌
- ・ため池「鯉つかめ」の行事
- ・画家の視点で見つけて描いた「ベーハ小屋」
- ・植物分布から見た交差点としての美濃加茂
- ・哲学者・佐野一彦が見た里山文化

○すでに展開されている活動と広がり

- ・小学校で発刊されている絵本
「あまちのさんぽ」「えげんさん」・・・
- ・ガイドマップ
「米田白山遊歩道マップ」・・・

○拠点施設として 美濃加茂市民ミュージアムが 取り組むことと 可能性と課題

- ・地域の資源や資料を大事にしている組織は博物館以外にもある。保存に関する関係者の協議や議論の場をつくることはできるのでは・・・

関連機関との連携

- ・東海三県にある大学を中心とした動きは見守りつつ
- ・岐阜県博物館協会が
地域資料保全のために、まずできそうなことは何か？

- ・地域資料関係団体との連携

「**岐阜県地域資料関係団体連絡会**」を設立(2025年1月～)

- ◇岐阜県歴史資料保存協会
- ◇岐阜県郷土資料研究協議会
- ◇岐阜県文化財保護協会

→これを踏まえて今後

岐阜県文化財保護担当部局(岐阜県文化財保存活用大綱)

との情報共有・調整

◇岐阜県歴史資料保存協会

1974年、岐阜県市町村史研究連絡協議会として発足、(1979年に現協会に改称)、岐阜県歴史資料館(1977年開館)内に事務局

・岐阜県の歴史資料特に文書資料の調査、保存を目的

◇岐阜県郷土資料研究協議会

1973年発足、岐阜県図書館内に事務局

・岐阜県に関する各種研究成果や情報を収集、紹介を目的

◇岐阜県文化財保護協会

1971年発足、岐阜県県民文化局文化伝承課と関係が深い。

・文化財の保護、顕彰および活用、最近では岐阜県文化財保存活用大綱(2021年策定)の取組促進を目的

地域の資源を考えるという点で、

- ・共通する目的を持つ団体や組織と、情報共有し連携をとりながら活動を深めることが必要
- ・岐阜県博物館協会として、地域における**社会的役割**を果たしていきたい

さて今後

- * 協会加盟に「何のメリット？」 ……そんな疑問に対して
- * まずはお互いに顔見知り、相談できる関係を作ること。
- * ネットワークによって何かがはじまる、世界が広がる
- * 他の事例は必ず自身や自館の参考になる。
- * 大きな館も小さな館も共通する課題は多い
 - ⇒最終的には加盟館のために、
 - 加盟館に属する人たちのために、
 - そして利用者や市民、地域のために
- * できるところから少しずつ。無理をしない。続けていくうちに理解がされていくのでは…

触発の場

（創立60周年記念誌に掲載）

- ・人は、自分とは違ったことがらに遭遇した時に、戸惑いや混乱が生じながらも、驚きと刺激を受けます。
- ・それまで気づかなかった新たな観点は触発された行動を引き起こします。博物館の交流と連携とはそんな場でもあるのです。それは博物館利用者が展示などに接して受ける影響と同様です。

触発の場

- ・触発を起こすためには自由な空気、そして時にはちょっとした「遊びごころ」も必要です。
- ・難しいことは山積していますが、「やっててよかったねえ」とあとで思えるように、あまり窮屈にならず闊達さを大事にする楽しい博物館協会であり続けたいと思います。

いい笑顔！

悩みもあるけど、楽しいことが一番

現場で働くメンバーのモチベーション



東濃ブロック会合/20180125/瑞浪市



<http://www.gifu-museum.jp/>

岐阜県博物館協会事務局：岐阜県博物館内
(岐阜県関市小屋名1989)